平成２９年度　第２回熊谷市総合振興計画審議会概要

Ⅰ　日時：平成２９年８月２２日（火）午前１１時～午前１１時２５分
　　場所：熊谷市役所本庁舎　３０３会議室

Ⅱ　次第
　１　開会
　２　あいさつ
　３　議事
　　（1）　第２次総合振興計画案について
　　（2）　策定スケジュールについて
　４　閉会

Ⅲ　委員　（敬称略）

	氏　名	選　出　団　体	備 考
第１号	須永　宣延	熊谷市議会	会長
	黒澤　三千夫	熊谷市議会	
第２号	本塚　雄一郎	熊谷市教育委員会	（欠席）
	松本　丈	熊谷市農業委員会	（欠席）
	藤間　憲一	熊谷商工会議所	副会長
	青木　大	くまがや市商工会	
	吉田　公一	くまがや農業協同組合	（欠席）
	長又　則之	（一社）熊谷市医師会	（欠席）
	松永　勲	熊谷市自治会連合会	
	福嶋　良三	（社福）熊谷市社会福祉協議会	
	金子　貞雄	熊谷市文化連合	
	宇野　悦朗	（公財）熊谷市体育協会	
	岡田　博美	くまがや共同参画を進める会	
	藤間　太郎	（公社）熊谷青年会議所	（欠席）
	関口　恒雄	「連合埼玉」熊谷・深谷・寄居地域協議会	

　　事務局　総合政策部長、企画課長、企画課職員

Ⅳ　会議の概要
　　司会者：総合政策部長
　１　開会
　　欠席者の報告

２　　あいさつ

（須永会長）８月９日の第１回審議会に続き、本日もよろしくお願いする。本日は、前回示された計画の素案について、皆様からの提案や意見を、熊谷市の今後１０年間を視野にどのように考え、基本構想や基本計画にどのように反映させるか、審議いただきたい。

今後の策定スケジュールを踏まえながら、市長への答申に向けて、ご協力をお願いし、あいさつとする。

３　議事

審議会条例第６条第１項の規定により、須永会長が議長となり議事進行

⑴　第２次総合振興計画案について

（事務局説明）

いただいた意見をまとめたものが、資料１で、現時点での考え方や対応について説明する。

№１、アンケート結果について、毎年度実施している市民満足度調査に回答していただける方の多くが５０歳以上であり、第２次計画の策定に当たっては、様々な世代の意見を聴取することとした。

№２、近年の犯罪多発による不安が大きいという結果について、政策２施策２「防犯体制を整え、犯罪を抑制する」で、熊谷モデル（警察・市・自治会の連携）の的確な運用により、迅速な情報提供と地域ぐるみの防犯活動を推進していくこととした。

№３、産業支援への不満が大きく、表面的支援では活力は生まれないという意見について、商工会議所や商工会、事業者等の関係団体と連携して、ニーズの把握に努め、産学官が連携した施策を推進していきたい。

№４、政策７「便利で快適なひとにやさしいまち」の不満が大きく、具体的・独自性のある施策が欠如しているという意見について、ハード的なまちづくりの分野だが、市民ニーズの多い、公共交通の利便性の向上と、安全な道路整備を推進し、今後のまちづくりとして、コンパクト＆ネットワークの形成を図っていきたい。

№５、中心市街地の活力・にぎわい創出と人口増の課題解決の具体策がないのではという意見について、市民の関心・参画、関係団体との連携が不可欠であり、まちづくり会社やまちなかモール委員会等との協力のもと、魅力あるまちなかになるように努めていきたい。

№６、施策の満足度のアンケート結果の比較、調査方法、分析については、今後実施するアンケートの課題として検討したい。

№７、社会人の教育機会の創出について、産学連携の立正大学の公開講座や生涯学習活動で計画している。

№８、基本構想の将来人口の定量的な観点を補う定性的な補完表現が必要ではないかという意見について、今後も推進していく様々な施策により、少子高齢化の抑制は可能と考えられる一文を追加した。

№９～１１の文言については、修正した。

№１２の道路整備について、施工方法の見直しによる効率化とは、最新の技法を踏まえ、安全でありながら、費用及び工期が最善の施工を選択するということ。

№１３、基本計画における１０年の期間中のそれぞれの年・年度における重点施策「選択と集中」が必要なことについて、前期計画期間の重点施策はリーディング・プロジェクトであり、アセット等の各事業については、個別計画の中で示していく。

№１４、リーディング・プロジェクトと各政策・施策の関係を明らかにすべきであるという指摘について、関係が分かりやすいような図で示したい。

№１５、スポーツツーリズムを推進するで、観光戦略とそれを実行するための産業連携をつくる展開を明示すべきでないかというご意見については、実施体制の今後の課題として検討いたします。

№１６、ラグビーによるまちづくりで、東京オリンピック・パラリンピックとの関係については、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックは市民のスポーツ活動の推進に資すると思われるため、市民ボランティア募集情報等は、積極的に周知していきたい。

№１７、学力日本一について、知・徳・体という学力、豊かな心、そして体力という総合的な学力日本一を考えている。

№１８、まちなかのにぎわい創出で、市外から個人店舗を誘致することはどうかという提案について、大型商業施設の連携でまちなかへの集客・まちなか回遊でにぎわいを創出させ、既存店舗の振興と、新規店舗の進出につなげたい。

№１９、まちなかのにぎわい創出、政策では、商工業の振興について、地元産業を大多数占める中小企業を基準にして、リーサス（地域経済分析システム）を活用し、地域内循環を活性化させる戦略が必要であるという提案について、アンケートやデータ収集とそれらの分析を踏まえて、取組を検討していきたい。

№２０、東部地域における開発の推進の食のテーマパークのイメージについて、農業・農産物の地域資産を活用した６次産業とした企業・店舗の集積を想定している。

№２１、生涯スポーツの推進で、高齢者の関心を高めたらどうかという意見について、計画の中でも、スポーツに関心を持っていただき、実践、応援、協力できるスポーツ環境を整備していく。

№２２、スポーツツーリズムに関して大きなイベントの終了後の効果を持続できるようにしなければならないという意見について、地域資源のひとつであるスポーツ環境を生かし、ラグビーワールドカップ後もスポーツに親しむ機会を提供していかなければならないと考えている。

№２３、スポーツツーリズムを推進するについて、施策の目標値が少なすぎるのではないかという指摘について、多くの来場者が訪れる大会をカウントしているもので、今後はこの他の大きな大会を誘致していきたい。

№２４、粉物文化のほか、ホルモン焼きも熊谷ブランドではという提案については、今後検討する。

№２５、単身高齢者等の安否確認について、自治会・民生委員の皆さんの協力で避難行動要支援者名簿を整備して、災害時等に対応できる体制を整えている。

№２６、同じ施策の中で、災害時のボランティア動員力で、立正大学や市内高校生との連携強化が必要ではないかという指摘について、発災後すぐに、ボランティアセンターを社会福祉協議会と連携して設置し、ボランティアを広く受け入れる一元的な体制を整えることとしている。

№２７、同じ施策の中で、自助の強化に向けた広報を具体的に示す必要があるのではないかという指摘について、自助の強化に向けた広報、支援の中でその都度、周知していく。

№２８、民間のスポーツジムと連携した健康づくりはどうかという提案について、どういう方法で連携できるか、今後の課題にしたい。

№２９、医療体制を充実する、周産期医療の充実について、計画に記載している。

№３０、子どもが健やかに成長できる環境をつくるについて、変化が激しい実態に即した地域福祉計画の策定では、平成３１年度からの第３次地域福祉計画の中で対応していくこととしている。

№３１、社会保障制度を適正に運用するについて表現が不明確であるという指摘では、社会保障の適正運用は、高齢化も視野に、市民が安心して生活できる環境を整備することを意図している。

№３２、ごみの排出量を減少させる、発生を抑制する必要があるという指摘について、施策目標を設定し、今後も積極的に推進していく。

№３３、熊谷駅周辺の商業の低下、住民の減少については、街中への居住誘導や空き店舗の利活用等を推進し、市民にとっても来訪者にとっても利便性を向上した中心市街地の活性化を図っていく。

№３４、新工業団体の名称を正式名称の「ものつくり熊谷」に修正した。

№３５、文言を修正した。

№３６、市内企業の支援及び企業誘致の推進に関して、市融資制度のほか、企業家が求めるのは補助金でなく、人脈であるので、その情報を共有できるシステムが急務という意見について、企業紹介支援サイト「チャレンジステージ熊谷」の情報発信や、金融機関も関与している「ものつくり熊谷」との連携で支援していきたい。

№３７、雇用の創出と安定を図り、就労を支援するについて、ワークメイトの記述を追記した。

№３８、同じ施策で、高齢者の就労対策にいきがい対策を加えることについて、説明の中で、意欲や希望を持って活躍できるという表現にしています。

№３９、４０同じ施策で、補助金支給という表現を支援に修正した。

№４１、産学の連携支援に関して、近隣の大学等に農業高校、工業高校を含めたらどうかという意見については、含めて考えている。

№４２、農業高校、工業高校の食料、バイオ関連、高額の分野での関連性はという質問について、協働研究を促進するという単位施策で検討している。農産物の販売についても、すでに実施している。

№４３、熊谷らしい景観を守り、つくる、育てるで、籠原駅南北の景観計画については、まず熊谷駅、その後地元の機運を踏まえ検討することとしている。

№４４、アスリートを育てるシステムの検討の提案について、スポーツによるまちづくりの推進の中で、スポーツ活動を推進することとしている。

№４５、文化芸術振興計画の策定については、先日の審議会後、所管部署と調整している。

№４６、アセットマネジメントの具体的な数値目標と達成方法について、アセットマネジメント基本方針・基本計画を踏まえ、今後、施設分野ごとの個別計画を策定していく。

（意見、質問等）

（委員）総合振興計画の策定に当たり、市民等から意見等を募り、まとめあげたとのことだが、その過程を強調しすぎると人気取りになってしまう。人気の有無に関わらず市の施策としてやるべきことがあり、代表的なものが文化である。県のように文化芸術の振興計画を作ってもらいたい。

⑵　策定スケジュールについて

（事務局説明）本日が第２回審議会、９月２０日からパブリックコメントを開始、それらの結果を受けて１０月下旬に第３回審議会、１１月上旬に答申、１２月市議会定例会で基本構想を提出、１～２月に計画書印刷、３月配付の予定である。本日以降の意見等については、パブコメの期限（10/20）までに提出してもらいたい。

（意見、質問等）

（委員）パブリックコメントの方法は

（事務局）市報と市ホームページで広報する予定である。

４　閉会

追加の意見等はパブリックコメントの期限までに事務局へ。